

総合防除（IPM）を行うために利用できる防除技術（花き）

作物名	病害虫名	防除技術
花き類	病害虫全般	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前作の作物残さの処理（施設における蒸し込み、残さの焼却、埋却処理等）を行う。</li> <li>2 ほ場内や周辺の除草を行い、ほ場衛生に努める。</li> <li>3 土着天敵に影響の少ない薬剤を使用し、密度抑制を図る。</li> <li>4 防除資材を活用する（別表参照）。</li> </ol>
きく	白さび病	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病気に強い品種を選ぶ。</li> <li>2 発病している親株からは採穂しない。</li> <li>3 発病苗は利用しない。</li> <li>4 発病葉は摘み取り、焼却する。</li> <li>5 施設内換気を行い、多湿を防ぐ。</li> <li>6 マルチを利用する。</li> </ol> <p>※露地では、梅雨期や秋雨後の発生が多い。</p>
	キクえそ病 （TSWV） キク茎えそ病 （CSNV）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ウイルスの感染が疑われる苗は、廃棄する。</li> <li>2 媒介虫であるミカンキイロアザミウマを防除する。</li> </ol> <p>※別表「防除資材」の項を参照する。</p>
	黒斑病	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 下葉をかき取り、通風を良くする。</li> <li>2 発病している親株からは採穂しない。</li> </ol>
	灰色かび病	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 窒素肥料の多用を避ける。</li> <li>2 排水と通風を良くし、多湿を避ける。</li> <li>3 発病した茎葉や花は摘み取り、焼却する。</li> </ol>
	オオタバコガ ハスモンヨトウ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼虫は見つけしだい捕殺する。</li> <li>2 施設栽培では開口部を目合い4mm程度の防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>3 黄色防蛾照明技術を利用する。その場合、作物全体に黄色光（1～3ルクス）を照射し、陰になる部位ができないように注意する。</li> </ol>
ばら	うどんこ病	換気と暖房による施設内の適正な温湿度管理に努める。
	黒星病	発病した葉や枝及び落葉は除去し、焼却する。
	べと病	温風機や除湿機の利用等により、湿度を下げる。
	ハダニ類	高温、乾燥にならないようにする。
りんどう	褐色根腐病	排水対策を十分に行う。
	茎枯病	

作物名	病害虫名	防除技術
トルコギキョウ	葉巻病	1 発病株は見つけ次第，除去する。 2 残さは埋却処理する。 3 ノゲシ，ウシハコベ等雑草にも感染するため除草を徹底する。 4 媒介虫であるタバココナジラミを防除する。また，施設内への侵入を防ぐ。 ※別表「防除資材」の項を参照する。 5 栽培終了後は作物が完全に枯死するまで施設を密閉して，タバココナジラミの施設外への脱出を阻止する。
	えそ輪紋病	1 発病株は見つけ次第，除去する。 2 媒介虫であるネギアザミウマを防除する。また，施設内への侵入を防ぐ。 ※別表「防除資材」の項を参照する。

別表 防除資材

対象病害虫	資材の種類	使用方法	効果
アザミウマ類 ハモグリバエ類	防虫ネット (目合い0.8mm以下)	育苗床被覆 施設入口，換気部被覆	侵入防止
	近紫外線除去フィルム	ハウス被覆	
アザミウマ類	光反射マルチ	畝，通路面被覆	飛来抑制
	粘着シート，粘着テープ (青または黄色)	(粘着シート) 株元，草冠部に被覆	大量補殺 早期発見
ハモグリバエ類 コナジラミ類	粘着シート，粘着テープ (黄色)	(粘着テープ) 施設周辺に張り巡らす	
コナジラミ類	防虫ネット (目合い0.4mm以下)	育苗床被覆 施設入口，換気部被覆	侵入防止
アブラムシ類	シルバーマルチ シルバーテープ	畝，通路面被覆 ほ場周辺に張り巡らす	忌避

注 防虫ネットの利用により施設内の気温が上昇する傾向がある。また，光反射マルチやシルバーマルチの利用により地温の上昇が抑制される傾向がある。そのため，作物の生育への影響に注意する。